

# 高級中等學校第二外語 教育推動計畫電子報

台湾の高等学校における第二外国語教育推進プロジェクト  
ニュースレター



圖片 Crazy nook/Shutterstock.com

## 國際理解的中小學日語教育之實踐— 以大學與中小學跨校 合作為主

淡江大學外國語文學院日本語文學系、  
淡江大學教育學院師培中心  
闕百華教授

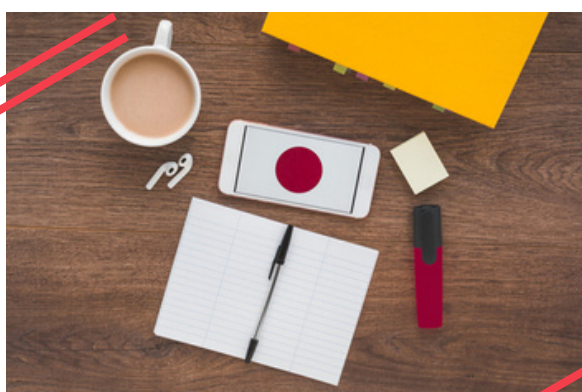
12年國教素養導向的課程發展，強調培養全球公民責任意識與行動力。在中小學教育現場，透過跨科、跨領域教學導入永續發展目標（SDGs），型塑具特色的校本課程已蔚為風潮。國際交流與外語教育若能重視對象國家的語言與文化，讓學習者透過互動加深感受，將更能促進對於多元文化共生社會的認識。筆者以大學與中小學合作的「手牽手話（畫）夢想」、「手牽手話（畫）家鄉」、「手牽手話（畫）永續」台日交流系列活動為例，說明「彈性學習課程」的日語社團，以及普通高中校訂課程的日語選修課，如何在跨校合作與學校行政端的支持下，實施專題式學習，並進一步擴大學習效應？相關教案示例與教學影片以創用CC分享，期待未來有更多第二外語教學的互助與共好。

## 1 はじめに

近年、急速に進行するグローバルな知識基盤社会の中で、コンピテンシーに基づく教育改革が世界中で推進されており、特に、世界の共通言語としてのSDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献を図るため、資質・能力ベースの教育課程編成と特色ある学校づくりが展開されています。台湾でも、こうした課題に対応するために、現行の「十二年国民基本教育課程綱要」というカリキュラム・ガイドラインにおいて、教科を横断的に捉えたコンピテンシーの育成が求められています。また、2018年末から、台湾の国家政策である「2030年バイリンガル国家計画」が台湾の学校を世界と結びつけるために推進されてきました。この背景から、教育部は2020年5月に、「国際社会と連携し、世界と交流する」というビジョンの下で、グローバル・シチズンの育成と教育の国際化を促進し、グローバルな交流を発展させることを目指した「小中高校国際教育白書2.0」を新たに発表しました。同時に、「台湾国際教育旅行連盟2.0」も設立され、この再編により、教育旅行の助成対象が高校から小中学校に拡大されました。

教育部は、2000年から国際教育旅行を促進しており、2002年には「高中職推動国際教育旅行聯盟」が設立されました。台日の国際教育旅行事業は2022年に20周年を迎え、日本との交流・連携が盛んに行われています。グローバル時代の人材育成に対応できるように、教育部は台湾の国際教育旅行を「深い学び」の実践の場として位置付け、単なる観光ではなく、SDGsを探究学習のテーマとして取り入れ、現地学校との交流を通じて、国際的な相互理解を促進し、実際の外国語会話スキルを向上させる教育的な意義を示しています。その上、「小中高校国際教育白書2.0」や「十二年国民教育課程綱要」の理念や目標を踏まえて、第二外国語としての日本語学習は、国際交流と国際理解を促進し、世界市民としての資質を育成するために重要な手段であり、台日の友好親善に寄与すべきであると期待されています。

国際教育の推進においては、各教科を横断するコンピテンシーを育成するために、外国語教育にプロジェクト型学習（PBL：Project-Based Learning）を導入する取り組みが求められています。ここ数年、台湾では特色ある学校づくりが進められており、義務教育段階では内外の資源を最大限活用し、国際理解や国際交流の一環として外国語教育の充実に積極的に取り組んでいます。しかし、国際理解や国際教育に関



圖片 Evgeniia Primavera/Shutterstock.com

しては、多くの場合、英語科教員が主に関与し、英語教育として議論され、実践されています。その上、台湾の小中学校では、日本語は「弾力的学習課程」のクラブ活動として位置づけられており、普通高校のカリキュラムにおいても教育部規定の必修科目とはされていません。さらに、一般的な小中高校の学校現場では、日本語教師のほとんどが身分不安定な非常勤講師です。そのため、学校が独自の工夫だけで日本語教育の実施を期待することは難しい状況です。

十二年間国民教育段階における第二外国語教育の充実に取り組む際には、新しい教材の開発、教員の養成・採用・研修の総合的な改善、外部人材の有効活用など、条件整備が必要です。本文では、教育現場のニーズと現状を踏まえて教員の負担を考慮しながら、多くの児童生徒が気軽に参加できる国際交流の機会を提供するために、大学と小中高校の連携・協力を通じた台日間の交流学習の実践に焦点を当て、日本語教育の促進と国際理解教育の調和を目指したアプローチについて検討し、汎用性の高いカリキュラム・モデルを紹介したいと考えています。

## 2 「手を繋ごう」プロジェクト型協働学習

筆者は近年、教育・研究成果を社会に還元しつつ、台湾と日本の学校間での文化交流活動に取り組んでいます。

具体的には、小学校放課後の日本語クラブ活動や中学校の正式課程内の「弾力的学習のクラブ活動」の授業、高校の研修会を支援し、児童・生徒に日本語と文化交流の機会を提供しています。また、本学の大学院日本語文学研究科の講義や教育学部教員養成センターの中等教育日本語教員養成コースの「学校支援ボランティア」と連携し、具体的な授業テーマの提案から授業の設計、教材や教案の提供、日本語授業への参加、日本語教師の指導など、幅広い活動に積極的に参画しています。次はここ数年、筆者は日本と台湾の2つの小学校、2つの中学校、そして1つの高校で行われた「手を繋ごう」というプロジェクト型協働学習を設計し、教育活動に参加し、試行錯誤を経て改善された取り組みについて紹介したいと思います。



圖片 inspiring.team/Shutterstock.com



## 2.1 「手を繋ごう」PBLの第1弾「夢を語ろう」

今回の交流活動は、淡江中学附属純徳小学校の行政側からの協力と支援を受けて、放課後日本語クラブ（日本語学習中心）と4年生1クラス（英語学習中心）が宮城県にある柴田小学校の全児童と交流しました。「手を繋ごう」プロジェクトは、100円ショップで手に入る日本の伝統的な素材である「色紙」を活用します。このプロジェクトでは、相撲力士やアイドルのサイン、また記念日の手形アートなどを参考にしつつ、個々のアイデアを自由に表現することができます。作成手順は以下の通りです。まず、色紙に手形を押印します。次に、共通のテーマに基づいてイラストを描いたり、メッセージを書いたりします。最後に、自分のサインを添えます。さらに、お互いに顔を見ながら交流したいという思いから、作品の交換に加えて映像のやり取りも行います。

このプロジェクトを始める際、筆者は日本交流校の校長及び教頭先生と相談の結果、テーマを「将来の夢」に決定しました。教頭先生は、三カ国語で「私の夢は先生になることです。想成為老師。My dream is to become a teacher.」というメッセージが入った試作品を完成させました。また、プロジェクトの途中で、純徳小学校の日本語クラブは「私の夢」をテーマに、一般クラスは「自己紹介と学校の一日」に関するビデオレターを制作し、それを日本に送りました。これに対し、日本交流校からは、日本語と英語を使用した児童の自己紹介や学校の様子を紹介するビデオが送られてきました。さらに、台湾からのビデオレターを学級で鑑賞した後、日本の児童たちは手紙で返事を送りました。その中で、「本校児童は、文通相手の皆さんの様子を動画で見て、ますます親近感を持つことができました。また、語学力の高さに感動し、自分も他国語の学習を頑張ろうという思いを深めることができました。」と述べました。さらに、同年代の友だちが書いた手紙は刺激になり、両校は教室や図書室にお互いの「手を繋ごう」手形アートを展示しました。



図1 日本小学校の手形作品



図2 南投県H中学校日本語クラブ生徒の手形アート

一人一人の心からの手形メッセージ（図1）を読むと、台湾の児童たちは「ポケモンになりたい」「新幹線の運転士になりたい」といった夢を抱く子供たちもいますが、一方で「医者」「科学者」「芸術家」「先生」「お金持ち」といった特定の職業に対する人気が高まっていることが分かりました。それに対照的に、日本の児童たちは「プロサッカー選手」「バドミントン選手」「野球選手」など、スポーツ選手に憧れる子供が多い一方で、「ものを作る人」「保育士」「トリマー」「かいごし」「ネイリスト」など、将来なりたい職業が多岐にわたっています。こうして、子どもたちはお互いの夢を分かち合い、交流することで、異なる価値観に触れ、視野を広げる機会を得、日本の児童たちとの友情が育まれました。

## 2.2 「手を繋ごう」PBLの第2弾「故郷を語ろう」弾「故郷を語ろう」

「手を繋ごう」手形アートプロジェクトは、日本に交流校がなくても、交流校があると想定して行い、日本人と交流することもできます。次に、筆者は2019年2月から5月にかけて、台北市と南投県の2つの公立中学校で行った「弾力的学習課程」としての日本語クラブの教育実践について紹介します。この取り組みでは、本学の日本人留学生をゲストティーチャーとして招き、留学生3名と大学院生1名、クラブ活動の日本語教師2名によるチーム・ティーチング（T・T）指導を採用しました。

協働授業の対象は、台北市P中学校の1年次の日本語履修者27名と南投県H中学校の1年次の日本語クラブ履修生徒30名です。授業の場面設定は、来校の日本人



留学生ゲストに、自分たちの出身地について紹介することとなっています。このため、「色紙で手を繋ごう」PBLのテーマは「故郷を語ろう」と名付けました。この授業の目標は、手形やメッセージを入れた色紙を制作し、日本人留学生の前や学年集会で日本語と中国語の両言語でプレゼンテーションを行い、学習成果を共有し、表現力を向上させることです。このプロジェクトの具体的な目的は以下の通りです。

- (1) 基本的な日本語での挨拶を身につけること。
- (2) 簡単な自己紹介ができるようになること。
- (3) 趣味や好きなこと、物について話す能力を向上させること。
- (4) 住んでいる場所や地域について紹介できるようになること。
- (5) 挨拶やマナーの重要性を理解し、実践すること。
- (6) 手形アート制作と相手へのプレゼンテーションを通じて、自己表現能力を高めること。

中学校の日本語クラブ活動は授業時間が限られているため、楽しさや興味関心に訴えかけるゲームやアクティビティを効果的に取り入れ、コミュニケーション力を育成し、日本語の学習意欲を高めることが重要です。P中学校では週1時間、計4回の対面授業を通じて、「手を繋ごう」PBLや日本語アクティビティを実施しました。しかし、教科間の連携が不十分であったため、テーマ学習の時間を確保することが難しく、結局、限られた授業時間内で作業が行われました。また、PBL成果発表会の当日にプレゼンの練習が必要な生徒も多かったと感じました。

これに対して、南投県のH中学校は月に1回、各1時間、計2回の遠隔授業を行い、その後1回の対面交流会を実施しました。表1は日本語協働授業の概要です。遠隔授業の内容は前述したP中学校での協働授業とはほぼ同様ですが、学校現場で生徒が主体的に取り組む授業の工夫として、4人ずつのグループ分けをし、グループワークを導入します。これにより、生徒同士が協力し合いながら日本語の会話練習を行ったり、「

実施期間	授業内容・活動内容	備考
2019年4月8日(月) 9:00~10:00	1.あいさつ、自己紹介【復習】 2.趣味、好きなこと、好きなものの言い方 3.言ってみよう(私の自己紹介) 4.聞いてみよう(留学生の自己紹介)	遠隔授業(筆者の研究室で実施) 筆者指導 日本語講師:大学院生(朱先生) ゲストティーチャー:留学生2名 日本語クラブ先生(現地校で協働)
2019年5月7日(月) 9:00~10:00	1.色紙って何? 2.「手を繋ごう 故郷を語ろう」PBL説明 3.ふるさと南投の紹介 4.ふるさと紹介で使える文型と語彙 5.聞いてみよう(朱先生と留学生のふるさと紹介) 6.書いてみよう(朱先生と留学生のふるさと紹介)	遠隔授業(筆者の研究室で実施) 筆者指導 日本語講師:大学院生(朱先生) ゲストティーチャー:留学生3名 日本語クラブ先生(現地校で協働)
2019年5月31日(金) 11:00~15:30	「手を繋ごう 故郷を語ろう」成果発表会 中学生と留学生の交流会	現地校交流(新幹線で交流校へ) 留学生3名(ゲストティーチャー) 大学院生(朱)、筆者

表1 H中学校の日本語協働授業の概要(2018学年度)

2019年5月31日	現 地 校 交 流	備 考
11:00~12:00	1. アイスブレイク 自己紹介、じゃんけん名刺交換 2. 留学生による「手を繋ごう 故郷を語ろう」発表 3. 「手を繋ごう 故郷を語ろう」成果発表 (2ペア) 4. 百齡中学校との手形作品交流 実物鑑賞 5. 集合写真撮影	<b>日本語クラブの成果発表会</b> 特別教室にて実施 対象：1.2年次の日本語クラブの生徒 1.2年次各1ペア (計4名) 発表 約60人参加
12:00~13:00	給食体験と自由交流	2つのクラスに入る
13:00~14:00	1. 留学生3人の自己紹介 (院生翻訳) 2. あっちむいてホイ 一緒に遊ぼう 3. 日本のジャスチャー 当ててみよう、やってみよう 4. 留学生による「日本の中学生生活の紹介」 (院生翻訳) 5. 「自分の花を咲かせよう」指アート共同制作	特別教室にて実施 対象：3年次4クラス 約120人参加
14:00~15:30	<b>歓迎セレモニー&amp;成果発表会</b>	<b>修学旅行歓迎セレモニーの疑似体験</b> 体育館にて実施 対象：全校1.2年次 約500人参加 * 原住民語と中国語の二言語で紹介 * 1.2年次日本語クラブ各1ペア発表 * 故郷は台北、新北、福島、千葉、福岡の5か所。留学生らは日本語の後で中国語で発表。クイズの景品は留学生の「手を繋ごう」手形アート。
	1. 挨拶の言葉 (校長先生、筆者、淡江大学チーム紹介) 2. 生徒代表による学校紹介と歓迎の言葉 (3カ国語で) 3. カラーガードと吹奏楽部によるパフォーマンス披露 4. 原住民合唱団による原住民語と日本語の歌披露 5. 「手を繋ごう 故郷を語ろう」成果発表 (他の2ペア) 6. 淡大チームによる「手を繋ごう 故郷を語ろう」発表 7. クイズタイム (ふるさとクイズ、日本語で回答) 8. 記念写真撮影	

表2 現地校交流と成果発表会のスケジュール表

南投県の魅力を留学生に伝えよう」といった学習テーマについて討議し、プレゼンテーションの内容を決定します。そしてペアで共同作業して、一つの手形アートを制作し、その後パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行います。なお、南投県を紹介するための教材作成にあたり、H中学校行政側の協力を受け、同校が台湾教育部の「小中高校アクティブ・ランニング推進計画」(中小學行動學習推動計畫)の一環として取り組んでいる英語学習と連携し、南投県の魅力を英語で紹介するための教材や素材を共有しました。

南投県のH中学校での対面交流については、成果発表会と留学生交流会を同時に実施しました。さらに、国際交流の機会をより多くの生徒に提供するため、体育館で日本修学旅行生歓迎セレモニーの模擬体験も行われました。このように、

中学校の教職員は共通の理解のもと、手形アートの制作(図2)から日本語と中国語の二カ国語でのプレゼンテーションの練習、そしてセレモニーの開催に協力してくれました。

表2は成果発表会兼留学生交流会の流れを示しています。午前中、オンライン授業で知り合った生徒たちと対面し、交流しました。お昼、生徒たちと一緒に教室で食事を楽しみながら交流を深めました。午後1時には、高校受験を控える3年生と共に、ゲームやアクティビティを通じて日本語と日本文化を学びました。午後2時には、全校1年生と2年生の生徒たちが体育館に集まり、修学旅行歓迎セレモニーの模擬体験が行われました。

表2に示すように、あいさつと来賓祝辞の後、生徒代表が三カ国語であいさつと学校紹介スピーチを行いました。このスピーチは、一年前の日本教育旅行で、

当校が仙台第二中学校で一日現地の中学生と交流した際、4名の生徒が代表としてリレーで日本語、英語、中国語の三カ国語でスピーチを行った内容を一部変更したものです。その後、吹奏楽部とカラーガードが演技を披露し、原住民合唱団が原住民語、中国語、日本語の3つの言語で歌を歌いました。最後に、1、2年生の日本語クラブの生徒代表は500人の前で日本語と中国語で「手を繋ごう」PBLの成果を発表しました。それに続いて、日本人留学生たちは初めて二カ国語で自分のふるさとを紹介し、クイズを通じて生徒たちに日本文化・日本語学習の楽しさを伝えました。このイベントを通じて、生徒たちは国際感覚を養う良い機会となりました。

こうして、プロジェクト型外国語活動は教室内で完結することもできますが、学校行事としての成果発表会を行

うことで、学校全体を巻き込み、学年を横断するつながりを作り出し、多くの教員に教科を超えた国際理解教育への興味と関心を高めることができることが実証されました。

### 2.3 「手を繋ごう」PBLの第3弾「SDGsを語ろう」

SDGsは世界人々の共通の課題と夢を具現化したものです。台湾は国連の正式加盟国ではないが、国際社会で持続可能な未来への貢献を行っています。そのため、学校教育においてSDGsへの課題意識を持ち、アクションを起こす取り組み推進を強化し、児童生徒に持続可能な未来を築くための重要な価値観とスキルを提供することが不可欠です。この目標達成のために、筆者は前述の「手を繋ごう」PBL第1弾「夢を語ろう」と第2弾「故郷を語ろう」に続き、「世界夢一文字」のがき筆文字と「おにぎりアクション」を組み合わせ、新たに第3弾「SDGsを語ろう」を導入しました。



図3 第15回夢一文字コンテスト作品募集要項



2022年10月21日	学習テーマ	内容
1時間目	SDGsについて学ぼう	1. SDGsの17のゴールを日本語で言ってみよう。 2. 写真でSDGsの目標を当ててみよう。
2時間目	おにぎりを作ろう	1. おにぎりアクションとは何？ 2. 日本語でおにぎりの具を言ってみよう。 3. 折り紙でおにぎりを作ろう。
3時間目	思い出のおにぎり	1. PPT発表： ①おにぎり日本人 （淡江大学 日本人留学生） ②日本と台湾の食文化 （日本台湾交流協会 藤田先生） 2. おにぎりの手形アートを作ろう
4時間目	小さな発表会	1. おにぎり手形アートを完成させる 2. 手形アートで発表しよう。 3. おにぎり写真を投稿しよう。 4. AR フォト写真を作ろう。
午前の部：1年次の多元選択と美術班（40名）、午後の部：2年次の多元選択と美術班（35名）		

表3 「SDGsを語ろう Onigiri Action」研修会のスケジュール表

「世界夢一文字」とは郵便はがきの裏に、新年の抱負を一文字の漢字で筆文字で表現し、その理由と宛先を表に記入する作品（図3参照）のコンテストです。このコンテストは大分県・国東半島あいルネサンス連盟の主催で、2023年で第15回目を迎えました。台湾の学校は第10回から参加しており、新北市政府教育局は書道教育と国際交流の促進を目指して、第11回から毎年公文を発行し、各学校にコンテストへの積極的な参加を奨励しています。

一方、「おにぎりアクション」は、国連が定めた「世界食糧デー」（10月16日）に合わせて、和食を代表するおにぎりを通じた社会貢献活動のプログラムです。期間中、おにぎりの写真を撮影し、SNSや特設サイトに投稿するだけで、1枚の写真ごとにアジアやアフリカの子供たちへの給食5食に相当する100円が寄付

されます。主にSDGsの「1. 貧困をなくそう」、「2. 飢餓をゼロに」、「4. 質の高い教育」、「10. 人や国の不平等をなくそう」、「17. パートナーシップで目標を達成しよう」という5つの目標の達成に貢献し、世界中の人々に気軽に参加でき、社会貢献を簡単に実現できる機会を提供しています。この取り組みは、2019年にJapan SDGs Awardsで外務大臣賞を受賞しました。

第3弾「SDGsを語ろう」プログラムについて、筆者の大学チームは2022年10月末に、国立苗栗高校で「SDGs日本語で地球を救おう（SDGs用日本語救地球）」という第二外国語の多元選択科目（特色あるカリキュラム）を担当している数学科の専任教諭、簡志豪先生（日本語副専攻）と共同で授業の構築と研修会の実施を行いました。この研修会は、第二外国語日本語を履修している生徒と、

日本語がゼロ基礎の美術専攻の生徒を対象にし、1年次と2年次あるため、同内容の授業を午前、午後と2度実施し、以下の目的を持っています。(1) 日本語と日本文化の体験学習を提供すること。(2) SDGsについての知識と関心を高め、それを具体的な行動に結びつける機会を提供すること。そして(3) 大学入試で活用できるポートフォリオ評価に寄与することです。

表3に示されている通り、具体的な実施内容については、日本語学習の一環として、以下の2つのポイントを考慮します。(1) 学習シートを利用して、SDGs項目の数字とキーワードをローマ字で読む力を養います。(2) 「おにぎり何が好き？」と「おにぎり何食べる？」という短い対話文を使い、おにぎりの味に関連する語彙を学び、対話の反復練習の機会を提供します。また、日本人講師と留学生による和食文化の紹介と交流の機会を設けます。さらに、折り紙や色紙アートで作られたおにぎりの作品写真を投稿することを通じて、日本

のNPO団体が主催する「おにぎりアクション」に参加し、国際社会が直面する多くの課題についての知識と関心を高め、それを具体的な行動に繋げる機会を提供します。つまり、日本語の学習にとどまらず、日本語と日本文化を体験し、SDGsなどの現実の社会問題を考え、創造力を発揮する活動を組み合わせたイベントでした。なお、図4と図5は生徒たちの手形アートの一例とその活動写真を示しています。

この研修会に講師として参加した藤田智彦先生（日本台湾交流協会 日本語専門家）から、以下のような評価をいただきました。

生徒の立場から言えば、この活動は授業の一環で参加しただけですが、自分の行動が困っている人々に役立つことを実感できる仕組みです。特に中等教育の第二外国語の授業では、単に正確な文字や文法を書くことよりも、教室の外で社会と連携し、自身の知識や能力を活かすことで成功体験を得ることが重要だと考えています。この授業はそれを具現化したものでした。



図4 「SDGsを語ろう Onigiri Action」手形アート



図5 「SDGsを語ろう Onigiri Action」の研修会の写真

このように「手を繋ごう」手形アートプロジェクトを通じて、教室内での浅くやさしい日本語活動が幅広く深い学びを実現する一助となり、自分の夢を語ることから、身近な地域社会の紹介、そして国際社会が直面する多様な諸課題についての知的関心を高め、具体的な行動につなげることができました。また、日本文化の体験と日本人との交流により、新たな知的好奇心が刺激され、日本語や日本文化への学習意欲が高まり、持続的な学びが促進されたと考えられます。

## むすび

地球市民としての意識を身に着け、主体的に行動する姿勢を養うために、これからの小中高校における国際理解や外国語教育の授業は、英語だけでなく、相手国の言語と文化を尊重し、互いの国に固有のユニークな文化要素も取り入れて、学習者が親しみを感じ、相互理解を深め、多言語多文化の共生社会への認識を高めることが重要です。

本稿では大学と小中高校との連携によって実施可能になった台日交流学習の取

り組みを紹介しましたが、持続可能な国際教育を推進するためには、個々の教員の熱意と能力だけでなく、学校管理職のリーダーシップのもとで、学校内外の人的・物的資源を積極的に活用し、体系的なカリキュラムとそれを支える体制を構築する必要があることが明らかになりました。

また、この「手をつなごう」PBLは具体的な事例として、一人でも多くの教職員や教育関係者が、国際理解の一環としての外国語教育や異文化理解について考え、教育実践に新たな視点で取り組むことができるよう、筆者はCCライセンスで提供している「台湾12年国民教育日本語教師ネットワーク（台湾中小學日文教師合作備課平台）」というブログおよびYouTubeチャンネルで教案と授業実践のビデオ映像を公開しています。ぜひ、ご参考になしてください。

### 台湾中小學日文教師合作備課平台



blog(教案示例)



YouTube(教學影片)



### 參考資料

關百華 (2022) 『日本の教育改革から学ぶ台湾における小中学校の日本語教育の研究』 (師法日本教改之台灣中小學日語教育的研究)。致良出版社。

關百華 (2021) 教案示例【夢一文字×SDGs】手牽手話(畫)家鄉 視訊課程。台灣中小學日文教師合作備課平台 (部落格)。https://tankoujp51.blogspot.com/2021/05/sdgs02.html

關百華 (2023) 教學實踐影片【飯糰行動】SDGs×飯糰之亂in國立苗栗高中【おにぎりアクション】。https://youtu.be/DKv3IEZI2M8?si=gH-7tMaaa7DLydxY

国東半島あいルネサンス連盟 (2023) 世界夢一文字コンテスト。https://www.kunisakiairune.com/

## 業務宣導

1. 即日起至11/30 (四) 辦理112年度高級中等學校第二外語教育推動計畫電子報之學生徵文活動，相關徵文辦法及附件，請參閱高級中等教育第二外語推動計畫網站 (https://reurl.cc/XLgyEM) 之最新消息，歡迎學生踴躍報名。
2. 預計10月中旬辦理112學年度第1學期高級中等學校第二外語實際開課調查，敬請各校留意相關訊息。
3. 10/27 (五) 將辦理112年度高級中等學校第二外語推動計畫之第二外語教師教學研習，敬請各校留意相關訊息。

## 特色開班



介紹日本新年文化習俗 (日語課程)

### 1. 臺北市立百齡高中

#### 教學特色：

該校開設第二外語課程之教學目標為培養學生學習第二外語興趣，提昇外語能力，俾為未來升學或就業之準備；增進學生了解第二外語國家之民俗文化，擴增其國際視野及人文素養等，並於課程中安排該國語言節慶活動、搭配語言學習，讓學生更能夠深入瞭解各國語言的民俗風情。



左圖：小組活動競賽 (法文課程)

右圖：小組口頭報告 (法文課程)



## 特色開班

### 1. 臺北市立百齡高中

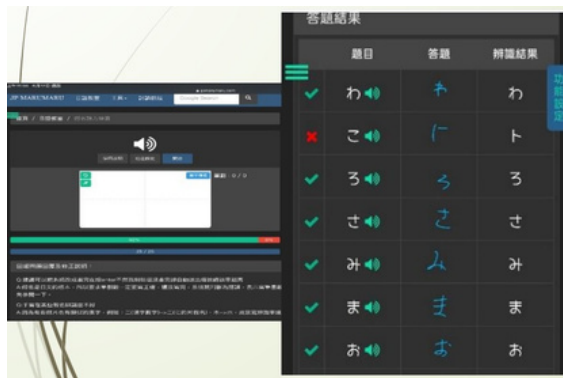
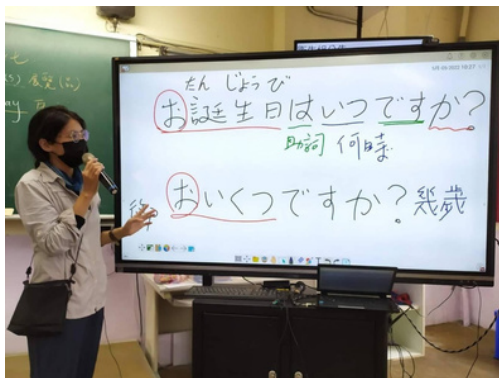


授課教師邀請法國友人分享國王節慶典

### 2. 新北市立雙溪高中

教學特色：

該校開設的日語會話課程，除了讓學生學習基礎的詞彙、文法外，還結合課堂討論及線上測驗等活動，讓學生加強自身的語言能力。另，課程也安排異國料理活動，讓學生能親手體驗製作日本美食的過程及樂趣。



左圖：日語課堂教學  
右圖：線上測驗平台



左圖：課堂成果發表  
右圖：日本美食製作體驗



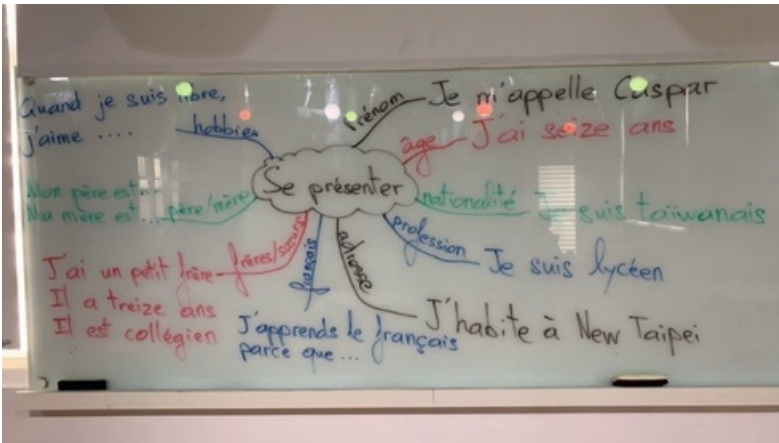


## 特色開班

### 3. 中國文化大學法國語文學系－法語初階班

教學特色：

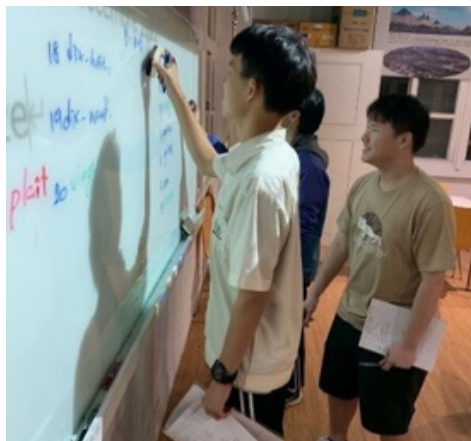
該系所與新北市錦和高中合作開設法語初階班，採取多元教學的方式，不僅讓學生能在課堂上角色扮演、練習口語表達，且結合課堂活動的方式，像是桌遊、紙牌遊戲及破冰活動等，讓學生能積極投入課程教學，更熟悉、掌握語言的文法及精髓。



運用心智圖學習法語



角色扮演及對話



左圖：  
以遊戲方式在黑板上寫句  
子、文章、練習動詞變化

右圖：小組學習



左圖：運用  
人工智能的  
軟件和應用  
程序來學習  
法語

右圖：玩紙  
牌遊戲



## 異國風情：9月文化節慶介紹

### 1. 德國慕尼黑啤酒節 (9/16-10/3)

每年9月下旬至10月初是德國知名的慕尼黑啤酒節 (Oktoberfest)，又稱為「十月節」。最早起源於西元1810年所舉行一場巴伐利亞的皇室婚禮上飲酒慶祝，且9月、10月正逢大麥和啤酒花豐收的時節，讓人們能一同歡聚、慶祝，一直至現今演變成德國最知名、最有特色的慶祝活動。

慕尼黑啤酒節是全世界最大的民間狂歡節之一，節慶當天會有華麗的馬車遊行，由9千多位來自歐洲各國，像是奧地利、克羅埃西亞、希臘、匈牙利等國家的人民組成遊行隊伍，長達6公里，隊伍人群身穿巴伐利亞的傳統民族服裝，由象徵慕尼黑的Münchner Kindl (慕尼黑小孩-慕尼黑市徽) 帶領，以及慕尼黑市長會乘著馬車，一同帶領啤酒廠專有的馬車、樂隊及表演花車前行。



(參考資料及圖片來源：  
<https://reurl.cc/gZOr6L>,  
<https://reurl.cc/plzp9b>,  
<https://reurl.cc/b95RME>,  
<https://reurl.cc/3xdpAO>,  
<https://reurl.cc/K0V0ep>)



(參考資料及圖片來源：  
<https://reurl.cc/9Vjyav>,  
<https://reurl.cc/b7Lxgl>,  
<https://reurl.cc/9Vjy9j>,  
<https://reurl.cc/3xdznR>,  
<https://reurl.cc/eDjr2R>,  
<https://reurl.cc/M8neok>)



### 2. 韓國秋夕節 (9/28-9/30)

韓國的秋夕就如同中華文化的中秋節一般，即韓國的中秋節，又稱為「仲秋節」、「嘉俳日」。最早起源於三國時代的新羅，當時的朝鮮半島結合本土文化及中國唐朝的中秋節習俗，發展成韓國中秋節慶祝秋收及賞月的特有文化。

韓國的中秋節文化也有類似清明掃墓祭祖的傳統，並且在祭祖桌上，擺放第一次秋收的作物及水果，向祖先行大禮，這個祭祖儀式也稱為「茶禮 (차례)」。擺放的祭品也會依不同地區盛產的農作物或海產而不同，像是首爾人會擺乾黃花魚、慶尚道則是擺章魚等，各地區皆有各自祭祀擺設的差異及特色。

## 大學二外：第二外語相關系所介紹



(參考資料及圖片來源：<https://reurl.cc/o7NZXD>)

### 1. 國立政治大學韓國語文學系

該系成立於民國89年，創系至今已逾20年，其成立宗旨在於培育具國際觀之韓國語文及對韓交流人才。在教學方面，著重訓練學生聽、說、讀、寫的能力，讓學生具備流利的韓語專業能力。此外，該系開設多方面的專業課程，像是韓文文書處理、韓語口譯及新聞韓語等課程，讓學生可選擇感興趣的課程進行學習，並同時充實自身的專業知識及語言能力。

系網連結：<https://korean.nccu.edu.tw/>

(參考資料及  
圖片來源：  
<https://reurl.cc/5M6QI7>)



### 2. 淡江大學西班牙語文學系

該系成立於民國51年，為國立創系歷史最悠久的西班牙語文系所，同時也為國內唯一一所全部的專任師資皆擁有博士學位的西班牙語學系。主要的教學目標為培育學生成為具有實務能力的西語專業人才，配合其他學分學程、微學程等多元領域的專業課程，讓學生除了具備西語的基本能力，還能學習多元的技能及專長。

此外，該系每年會甄選大三學生赴西班牙姊妹校留學一年，暑假期間也會安排學生至西班牙進行短期進修，讓學生能更認識、瞭解西班牙的民俗風情及文化，以及精進自身的語言能力及專長。

系網連結：<https://www.tfsx.tku.edu.tw/spanish?lang=zh-tw>

## 語言學習

### 線上語言學習資源



#### 1. Ted Talks

Ted本身是一個媒體集團，除了定期舉辦演講、邀請專家學者及知名人物參加外，還會把許多不同主題的演講影片，上傳分享至網路社群，名為「Ted Talks」的影片頻道。官方提供多種外語的字幕或是不同國家的母語人士的演講，讓瀏覽者能訓練自身的外語能力，以及學習多元的專業知識及資訊等。

官網：<https://www.ted.com/talks?language=zh-tw>

(參考資料及圖片來源：  
<https://reurl.cc/mDe8RY>，  
<https://reurl.cc/QX8rab>)

## 語言學習

### 線上語言學習資源

#### 2. Drops

Drops平台提供超過45種語言的學習課程，它的App除了設計遊戲單元讓使用者能輕鬆學習之外，還提供許多有趣的App功能，例如，能與朋友、家人一同學習或累積學習徽章等，皆是吸引學員使用的趣味軟體。

官網連結：<https://languagedrops.com/>

(參考資料及圖片來源：  
<https://reurl.cc/qkxYEN>)



### 語言檢定相關資訊

**DELE 2023 10月**  
10月13日 (五)  
[www.dele.com.tw](http://www.dele.com.tw)  
[www.idodo.org](http://www.idodo.org)

(參考資料及圖片來源：<https://dele.com.tw>)

#### 1. DELE 西班牙語能力檢定測驗

報名期間：112/9/25—112/10/09

測驗日期：112/10/13 (五)

測驗級數：A1, A2, B1, B2, C2

官網報名：<https://dele.com.tw/>

#### 2. 日本語能力試驗 JLPT

2023年第2回JLPT日本語能力試驗

網路報名日期：8/25上午9點至9/11下午6點截止

測驗日期：12/3 (日)

考區：台北、桃園、台中、高雄

官網報名：<https://www.jlpt.tw/>

**日本語能力試驗 JLPT**  
2023年12月3日(日)

- 全球最大型、最具權威性的日語測驗。
- 合格者可取得國際認證合格證書；測驗成績可作為學習評量、甄試、求職或升遷之用，用途廣泛。

測驗級別	N1	N2	N3	N4	N5
測驗費	1,600元	1,500元			
進場時間	下午2點	上午9點10分			

測驗地點 | 台北、桃園、台中、高雄  
報名期間 | 8月25日 9:00~9月11日 18:00  
報名方式 | 登入會員+填寫資料+上傳照片 (3分鐘報名OK!)  
考 慮 | 11月中旬發卷  
成績揭曉 | 隔年1月下旬開始網路查詢；3月上旬寄發成績單  
詳細訊息可於8月16日起至JLPT網站查詢

主辦機構 | 日本國際交流協會、日本國際交流基金會、駐紮財團法人語言訓練測驗中心  
網站：<https://www.jlpt.tw> 電話：(02)2460-5050  
地址：106013 臺北市大安區辛亥路二段119號(廣大銀樓對面)

(參考資料及圖片來源：  
財團法人語言訓練測驗中心)

#### 日本語能力試驗 JLPT

試 驗 日 2023年12月3日(日曜日)  
DATE DECEMBER 3, 2023 (SUNDAY)

## JAPANESE- LANGUAGE PROFICIENCY TEST 2023

#### 2023年第二回

測驗時段	下午	上午
測驗級別	N1 N2 N3 N4 N5	N1 N2 N3 N4 N5
測驗費	1,600元	1,500元
報名期間	8月25日~9月11日	

- 測驗地點：台北、桃園、台中、高雄
- 報名三步驟：登入會員+填寫資料+上傳照片+繳費
- 報名網址：<https://www.jlpt.tw/>
- 詳細訊息可於8月16日起至JLPT網站查詢
- 服務專線：(02) 2365-5050

主辦機構：日本國際交流協會、日本國際交流基金會、駐紮財團法人語言訓練測驗中心





## 文化二外



**報名截止日** 112年  
THU 09.28 17:00

**競賽日期**  
SAT 10.14 14:00 – 15:00

**競賽對象**  
具中華民國國籍15-30歲青年

**競賽地點**  
文藻外語大學正氣樓  
高雄市三民區民族一路 900 號

**競賽語言**  
● 印尼語  
● 越南語  
● 泰語

**競賽獎金**  
金牌獎：5000元整  
銀牌獎：4000元整  
銅牌獎：3000元整  
佳作：1000元整

**競賽相關注意事項公告日期：**  
112年10月6日(五)

掃描立即報名!

敬請密切關注  
FB專頁最新公告!

主辦單位：文藻外語大學  
協辦單位：文藻外語大學東南亞學系  
補助單位：財團法人臺灣民主基金會

◎ 聯絡人：邵小姐 (0952-315-221)  
◎ 聯絡信箱：kaoseas@gmail.com

### 112年東南亞語言作文競賽

#### 1. 競賽目的：

本競賽旨在增進我國青年學子學習東南亞語言興趣、鼓勵年輕學子發揮多元文化及語言的優勢，及提升東南亞語言的能力。

#### 2. 辦理單位：

- 主辦單位：社團法人高雄市東南亞產學交流協會
- 協辦單位：文藻外語大學東南亞學系
- 補助單位：財團法人臺灣民主基金會

#### 3. 競賽語言組別：

- 印尼語
- 越南語
- 泰語

#### 4. 參賽資格：

具中華民國國籍之15歲至30歲青年

#### 5. 競賽時間及地點：

112/10/14（六）於文藻外語大學舉辦賽事。

#### 6. 報名網址：

<https://forms.gle/HsmVMTRFaxzUmNGx7>

#### 7. 活動詳情請見：

<https://kaoseas.blogspot.com/2023/08/112.html>

(參考資料及圖片來源：

<https://kaoseas.blogspot.com/2023/08/112.html>)

即刻訂閱電子報，掌握第二外語教育新鮮事！

訂閱連結：<https://forms.gle/RVkynhnkpMqNpvUF7>

#### 發行單位

出版者：教育部國教署高級中等學校第二外語教育推動計畫委辦學校－國立臺南高級商業職業學校

發行人：黃耀寬校長

撰 文：張資宜專案助理

電 話：06-2617123 #573、576

總編輯：張家榮主任

美術設計：王馨蔓專案助理